

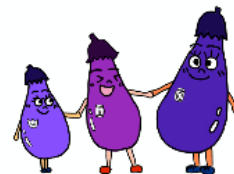
# 南っ子だより<sup>3号</sup>

飽田南小学校だより

令和7年5月24日(金)

文責:松永 和宏(校長)

今日(24日)は、多くの学校で運動会の予定でしたが、雨のため順延となったようです。本校でも昨日、5、6年生と職員でできるところまで準備をしています。PTAの方も来てくださってテントの組み立て、移動を行ってくださいました。感謝です。



本校は運動場の水はけがかなり厳しく、今後の雨の様子と運動場の状態とをにらめっこしながら、本日夕方までには明日開催にするのか、明後日開催にするのかを決定していきます。保護者の皆様にはご心配をおかけしますが、引き続きご理解、ご支援・ご協力の程、よろしくお願い致します。

## 雨の日

今日は土曜日ですが通常登校、運動会の延期も決まり、子どもたちの様子はどうかと少し心配しましたが、変わらず元気に登校してくれました。そんな中で、いい気付きをさせてもらったやり取りがありました。

いつものように、正門側の道路に立っていると、1年生の男の子2人が、信号の向こうから私に「学校ついたら靴下乾かしてもらおう!」と宣言しました。

「おー、だったら担任の先生に言わなんね。濡れた?」

「うん。びちゃびちゃ。」

と笑顔で答えてくれました。

また、別の女の子二人が、傘を閉じてにこにこ信号待ちしていました。

「雨やんだの?」

と聞いて傘を閉じてみると、小雨が降っています。

「まだ降っているじゃん。」

と慌てて傘を戻す私の様子を見て、二人ははじけるように笑っていました。改めてみると帽子をかぶり、雨が気にならなかったのでしょうか。

どちらも、登校途中に、

「うわっ、靴下濡れた。」

「学校ついたら脱いで乾かそう。」

とか

「雨、大したことないね。」

「傘ささなくていいかも。」

といったやり取りをしていたのかな。と想像しました。

これは、やはり『雨に濡れる』という、子どもたちには切迫した経験を通して、『じゃあどうすればいいか』という判断を自分たちでしているのだと思います。先の二人は、この経験を通して「じゃあ雨の日は替えの靴下持っていこう。」といった工夫をしていくかもしれません。大人が、子どもが不利益にならないように、先回りして判断を示すということは、特に命にかかわることについては大事です。しかし、自分たちで判断していく力をつけさせる意味から、多くの経験をさせていくことも大切です。

雨からも学ぶ子どもたちの様子を見て、賢くなっていくことを実感できる出来事でした。

